

リサーチユニット認定申請書

2020年9月9日

1. リサーチユニットの概要

リサーチユニットの名称	人間中心情報検索・推薦システム	リサーチユニット
リサーチユニットの名称(英語)	Human-Centred Information Retrieval and Recommender Systems	
分野(1. 人社系、2. 理工系、3. 生物系、4. 複合系)	4. 複合系	
設置開始時期	2020年	10月
設置終了時期	2025年	9月

2. リサーチユニット代表者

所属・職名	図書館情報メディア系・准教授
氏名	上保 秀夫
氏名(英語)	Hideo Joho
E-mail	hideo@slis.tsukuba.ac.jp

3. リサーチユニットの類型(複数選択可)

- 研究拠点型
 研究ネットワーク形成型
 外部資金獲得型
 産学連携型
 社会的課題解決型
 その他()

4. 中核教員(ただし、当該リサーチユニット代表者以外の本学常勤教員2名)

所属・職名	図書館情報メディア系・准教授
氏名	加藤 誠
所属・職名	図書館情報メディア系・助教
氏名	于 海濤

5. 中核教員による競争的資金の獲得状況

(本申請年度を含む過去3年以内に、中核教員(当該リサーチユニット代表者含む)が研究代表者として獲得した科学研究費補助金基盤研究(B)以上もしくは若手研究以上相当のものについて主なものを一つ)

採択年度	2019年度
終了年度	2022年度
研究種目	科学研究費補助金基盤研究(B)
研究課題名	情報検索における思考の言語化にもとづく検索インタラクションの会話化
研究代表者名	上保 秀夫
交付予定金額(期間全体、間接経費含む)	16,250千円

6. 構成員一覧

名前	所属部局 (本学以外の場合については機関名も記載)	職名	役割分担	研究者番号 (本学の教職員のみに記載)
構成員1 上保 秀夫	図書館情報メディア系	准教授	代表者・ユーザ研究班リーダー	00571184
構成員2 加藤 誠	図書館情報メディア系	准教授	データ解析班リーダー	00646911
構成員3 于 海涛	図書館情報メディア系	助教	アルゴリズム開発班リーダー	30751052
構成員4 小川 泰嗣	国際産学連携本部	クリエイティブマネージャー	国際産学連携班リーダー	
構成員5 Adam Jatowt	京都大学	特定准教授	アルゴリズム開発班	
構成員6 Joemon M. Jose	グラスゴー大学	教授	アルゴリズム開発班	
構成員9 Yiqun Liu	清華大学	教授	アルゴリズム開発班	
構成員7 杉山 一成	京都大学	特定准教授	アルゴリズム開発班	
構成員8 吉岡 真治	北海道大学	教授	アルゴリズム開発班	
構成員10 康 鑫	徳島大学工学部	助教	アルゴリズム開発班	
構成員11 樺 惇志	株式会社デンソーアイティラボラトリ	アソシエイトリサーチャ	アルゴリズム開発班	
構成員12 野本 昌子	理化学研究所	テクニカルスタッフ I	アルゴリズム開発班	
構成員13 Maarten de Rijke	アムステルダム大学	教授	アルゴリズム開発班	
構成員14 Cathal Gurrin	ダブリンシティ大学	准教授	データ解析班	
構成員15 Frank Hopfgartner	シェフィールド大学	准教授	データ解析班	
構成員16 酒井 哲也	早稲田大学	教授	データ解析班	
構成員17 藤田 澄男	Yahoo! JAPAN研究所	上席研究員	データ解析班	
構成員18 真鍋 知博	ヤフー株式会社	エンジニア	データ解析班	
構成員19 村上 晴美	大阪市立大学	教授	データ解析班	
構成員20 大島 裕明	兵庫県立大学	准教授	データ解析班	
構成員21 梅本 和俊	東京大学	助教	データ解析班	
構成員22 莊司 慶行	青山学院大学	助教	データ解析班	
構成員23 Mark Sanderson	RMIT大学	教授	ユーザ研究班	
構成員24 神門 典子	国立情報学研究所	教授	ユーザ研究班	
構成員25 江草 由佳	国立教育政策研究所	総括研究官	ユーザ研究班	
構成員26 高久 雅生	図書館情報メディア系	准教授	ユーザ研究班	00399271
構成員27 山本 岳洋	兵庫県立大学	准教授	ユーザ研究班	
構成員28 山本 祐輔	静岡大学	講師	ユーザ研究班	
構成員29 石田 栄美	九州大学	准教授	ユーザ研究班	

構成員数について

構成員総数	29 名
(内訳) 本学教職員数	5 名
(内訳) 他機関研究者	24 名

7. 科研費小区分番号	主なものから順番に3つまで記載してください。		60080	62020	90020
8. キーワード(5つまで)	情報検索	情報推薦システム	人間中心手法	機械学習	データサイエンス
9. キーワード(英語)	Information Retrieval	Recommender System	Human-Centred Approach	Machine Learning	Data Science
10. 研究グループHP	URLを記載してください。 https://www.hcir.tsukuba.ac.jp/				
11. 研究グループ概要(100字程度)					
<p>本グループは、必要な情報が必要な時に入手可能なAI社会の実現に向けて、公平性、説明責任、機密性、透明性、安全性を考慮した信頼できる人間中心の情報検索および推薦技術に関する研究開発に国内外の産学と連携して取り組む。</p>					
12. 研究グループ概要(英語)					
<p>The group will collaborate with industry and academia in Japan and abroad on R&D of trustworthy human-centered information retrieval and recommendation technologies that can promote fairness, accountability, confidentiality, transparency, and security to achieve an AI society where relevant information is available as needed.</p>					
13. 設置の目的及び必要性					
<p>設置の目的 本リサーチユニットは、必要な情報が必要な時に入手可能なAI社会の実現に向けて、公平性、説明責任、機密性、透明性、安全性を考慮した信頼できる人間中心の情報検索および推薦技術に関する研究開発を行うことを目的とする。また、国内外の産学と連携ネットワークを構築することで、筑波大学を本テーマのグローバル研究拠点として確立することを目指す。</p> <p>設置の必要性 第6期科学技術基本計画の検討会においても、信頼できるAI社会の実現は大きな課題として議論されており、そのためには公平性、説明責任、機密性、透明性、安全性などを考慮した技術開発が不可欠である。一方で、既存の情報アクセス技術開発はデータおよびシステム中心に行われてきており、人間中心アプローチへの大きな転換が求められている。</p>					
14. 研究計画					
<p>初年度 初年度は、主に国内外の構成員らの最新研究動向を共有し相互理解を深めることを目的とした一連のディスカッショングループを開催する。その成果として、2年目以降に取り組むべき重点研究課題を設定する。</p> <p>2年目以降 初年度で設定された重点研究課題を柱として、人間中心の情報検索および推薦技術を実現するための、アルゴリズム開発と評価、データ収集・解析・公開、そしてユーザ研究を実施する。また、年に1~2回の成果報告会を開催し、各研究班の連携を図る。</p> <p>最終年度 最終年度は5年間の総括として、国内外で公開ワークショップを開催することで、当グループが研究開発を進めてきた人間中心の情報検索および推薦技術の成果を広く発信する。</p>					
15. 研究・教育に期待される効果(箇条書き)					
<p>研究に期待される効果</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでシステム中心で研究開発が行われてきた情報アクセス技術に対し、信頼できる人間中心の技術が開発される 国内外の構成員と産学連携を行うことで、国際性および実用性の高い技術を実現できる <p>教育に期待される効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間中心の技術開発能力を備えた人材養成が可能になる 次世代の情報利活用能力のあり方を想像できる人材の育成が可能になる 					